



名寄市立大学の窓から知への誘い

「リハビリテーションとは(1)」

保健福祉学部 社会福祉学科 教授 清野 茂

vol.22

多くの人にとって「リハビリテーション」はよく耳にする言葉だと思えます。

世間一般のリハビリテーション(リハビリ)とよく省略される()の意味は、けがや病気で身体が不自由になったときに行われる機能訓練をさす場合が多いようです。最近の話題では例えば「ヤンキース田中投手、右肘靭帯損傷で6週間のリハビリ」といったように。しかし、これは本来の意味のリハビリテーションのほんの一部にすぎません。

それでは、リハビリテーションとは何か。国連障害者に関する世界行動計画」による定義(1982年)では、次のように述べています。「リハビリテーションとは、損傷を負った人に対して、身体的・精神的、かつまた社会的に最も適した機能水準の達成を可能にすることにより、各個人が自らの人生を変革していくための手段を提供していくことを目指し、かつ時間を限定し

たプロセスである」また、WHO(世界保健機関)は、「障害の場合に機能的能力が可能な限りの最高レベルに達するように個体を訓練あるいは再訓練するため、医学的・社会的・教育的・職業的手段をあわせ、かつ調整して用いること」(1968年)としています。

ここから言えることは、最初に見たように機能訓練のように狭い医学的分野のリハビリテーションではなく、教育、職業、あるいは社会リハビリテーションにわたっているということ。また、それぞれの人が人生を変革していく手段を提供していくものだとこのこととです。もう少し具体的に述べてみましょう。変革していくための手段としての医学、教育、職業の各リハビリテーションについてはある程度理解はできると思いますが、残りの「社会リハビリテーション」とは何でしょうか。

全国社会福祉協議会が出版しているテキスト「リハビリ

テーション論」(2008年)では「社会リハビリテーションとは、社会生活を高めることを目的としたプロセスである。社会生活とは、さまざまな社会的な状況の中で、自分のニーズを満たし、一人ひとりに可能な最も豊かな社会参加を実現する権利を行使する力を意味する」と述べています。つまり、障がいをもつ人々が、自分の障がいを正しく認識し、必要なサービスを権利として活用し、社会の中で市民として主体的に生きていく力を強めていくことを意味します。

これらの力を形成したり、そのための環境を作ったりするうえで障がいの当事者組織、親の会や家族会、支援組織の役割は大きなものがあります。その成功例は、これまでの歴史の中でいくつも挙げることでできます。アメリカで生まれた肢体不自由当事者による自立生活運動、知的障がい当事者によるピープルファ

ーストの運動、日本でもこれらの運動に学びながら同様の活動が進められ、まさに「それぞれの人が人生を変革する」営みを続けています。精神障害分野では今や国内外に注目されている北海道浦河町の「ベテランの家」の活動もそのような成功例の一つです。

リハビリテーションに関する国際組織「リハビリテーション・インターナショナル」の委員を長く務めた故・小島蓉子氏はすでに国際障害者年(1981年)に先立つ1978年に次のように述べています。「社会リハビリテーションとは、社会関係の中に生きる障がい者自身の全人的発達と権利を確保し、一方、人を取りまく社会の側に人間の可能性の開花をはばむ社会的障壁があればそれに挑んで、障害社会そのものの再構築(リハビリテーション)を図る社会的努力である」この社会的努力は、障害者基本法にも記されているように障がい者だけに求められるものではなく、国、都道府県市町村のみならず、地域社会に生きる人すべてに求められているものなのです。

リハビリテーションに関する国際組織「リハビリテーション・インターナショナル」の委員を長く務めた故・小島蓉子氏はすでに国際障害者年(1981年)に先立つ1978年に次のように述べています。「社会リハビリテーションとは、社会関係の中に生きる障がい者自身の全人的発達と権利を確保し、一方、人を取りまく社会の側に人間の可能性の開花をはばむ社会的障壁があればそれに挑んで、障害社会そのものの再構築(リハビリテーション)を図る社会的努力である」この社会的努力は、障害者基本法にも記されているように障がい者だけに求められるものではなく、国、都道府県市町村のみならず、地域社会に生きる人すべてに求められているものなのです。

図書館的話題・シラバス

9月21日(日)で夏休みが終わり、学内がにぎやかになってきました。図書館では後期の授業に備え、指定図書コーナーの入れ替えを行いました。各授業の教科書と参考書をまとめて配置します。その際に使うのがシラバスです。

シラバスとは授業計画を記した冊子で、到達目標や時間ごとの内容、使用する教科書、授業の留意点、試験の有無などが載っています。学生が選択科目を決める際には、シラバスが頼りになります。

図書館においても、シラバスは教科書・参考書のチェックだけではなく、授業内容に関連する分野の選書やパスファインダー作成のために必要度は高く、大事な存在です。



名寄市立大学図書館

●開館時間 9時～21時

●問い合わせ ☎01654②4199

本館(内線3114) 分館(内線2200)